

11 番（小川義昭君）

それで市長、ローカル5Gについては今ほどお話がありましたように、だから北陸でこの前も報道で出たんですけれども、北陸での5G無線局の開設は、もう既にNTTドコモが許認可を受けておるわけなんです。

ですから、本市とは今NTTドコモさんとは実証実験を行っておるわけですから、NTTドコモのこの基地局、これを利活用することも私は1つかなど。そうすると膨大なお金もかかりませんから、またそういうことで検討してください。答弁はよろしいです。次に、RPA導入による行政事務の効率化についてであります。この質問は先ほど吉本議員が質問いたしまして重なっておりますけれども、私としては通告しておりますので、私なりの質問をさせていただきます。

昨今、様々な職場で働き方改革の取組が進められております。その取組の一つとして、パソコン上の定型業務を自動処理するプログラムであるロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）は、その汎用性の高さから急速に普及が進んでいます。

ロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）とは、パソコンを使用する作業を電子的に記録し、自動でデータを処理する概念であり、専用ソフトウェアの導入が必要であります。人間と比べて作業時間に制限がなく、疲労もないことから、生産性の向上や人件費削減、ミス防止に効果的とされています。今後、AI（人工知能）との連携で高度な判断、処理ができるロボットに発展すると予想されています。

このような中、県内の自治体においても人手不足や働き方改革を背景に、事務作業を自動化するRPAの導入の動きが広まり、県内19市町のうち金沢、小松、加賀の3市が既に取り入れて業務の効率化を進め、11の市町が現在検討しているとのことであります。

金沢市では今年度、避難行動要支援者名簿や高額療養費支給申請書などの入力作業にRPAを導入しています。これまでのデータ入力は職員が1件ずつ手作業で行っていたと聞いていますが、現在はスキャナーで申請書を読み取ったAIが書面の文字をデータ化し、RPAソフトの入ったパソコンが自動的に入力し、職員はデータに誤りがないかを確認するなど、業務の軽減をもたらしています。

加えて、小松市では税、福祉、財務会計システムの入力作業、加賀市では職員の時間外勤務の集計業務、電子入札と契約管理の処理作業などにRPAを活用していると聞き及んでいます。

事ほどさようにRPAは自治体の人手不足を補う手段として有効ですが、一方では導入の効果、導入に適した業務の選定方法、業務フローの見直し手法など、検討すべき課題も少なくありません。

さきの新聞報道によりますと、本市はRPAの導入については検討中とありますが、行政事務の効率化の決め手として、より具体的に導入に向けて検討してはいかがでしょ

うか。市長の見解をお伺いいたします。